同窓会設立行事等の報告

同窓会設立行事準備委員会元代表
同窓会副会長　井川　満
（1965年3月卒業，名誉教授）

1　はじめに

2015年6月6日に，京都大学理学研究科・理学部数学教室同窓会が発足した．当日参加者に配布し，また後日同窓会事務局が住所を把握している関係者に送付した「同窓会設立記念誌」に，私は“同窓会設立経過報告”なる記事を書いた．それは，設立行事準備委員会代表という役を担った者の責任と考えた故である．

今記している記事は，前の記事の続きであり，6月6日の設立行事について，その準備を含めて報告させていただき，準備に携わって下さった方々のご労苦に感謝の意を改めて表したい．

また，2015年度の学部卒業生，修士課程修了生に対する京都大学の学位授与式のあと，数学教室において関係の学生に対して学位記を一人一人に授与する式を行った．この行事やその他の事柄の報告もすることにする．

2　同窓会設立記念行事

2.1　準備

発起人会準備委員会は，2014年12月13日に発起人会が開催されたことで役目をおえた．それと同時に，発起人会において，同窓会を設立することが決議されたことより，設立に向けての準備が必要となった．そのため，発起人会準備委員会のメンバーは続いて設立準備の任に当たることとなった．さらに若干名の方に新たに加わってもらい，設立行事準備委員会が組織された．

準備委員会を2回（2015年1月17日，3月17日）開き，準備の全体構想を纏めた．準備委員会の実行部隊ともいうべき，数学教室教職員である委員達は昼休みに何度も集まって相談するとともに，与えられた役割分担に応じて，それぞれで相談を重ねて準備を進めていった．

設立行事としては

- 数学教室見学ツアー
- 記念講演会
- 設立総会
- 設立記念懇親会

が予定された．

行事内容が定まり,役割分担が定まると，そこから後は教職員，特に事務室・図書室の職員の皆さんが中心となって進めてくれた．私は，円滑な行事の進行にはどれ程の準備が要るのかを，いささか驚きの思いをもって眺めていただけである．

参加者への案内看板に関してだけでも，どの大きさのものを，どこに配置するか,作成はどのようにするか，設置は何時がいいか，担当は誰に，と本当に沢山の作業がある．

看板の作成・設置は，お金を出しさえすれば，生協がやってくれる．しかし，発足もしていない同窓会には借金はあっても，お金は無い．後払いは可能としても，そうすると会費を高くしなければならない．多くの方々に参加してもらおうとすれば会費は出来るだけ安くしたい．そんなことを何度も相談した．結果的には職員の方々が時間を割けば出来る作業は，職員の方々がやってくれた．

準備が一番大変であったのは，設立記念懇親会である．私の記録に残っている項目を挙げてみる．会場,料理・飲み物，音楽，進行，花，乾杯，写真，総長に参加依頼，受付，案内係，などなど，本当に沢山の仕事が必要であるのを段々と私は認識していった．受付での会費徴収に関し,領収書の準備一つをとっても,実に手間の掛かる作業なのを知った．

準備委員であった教職員の方々はもちろんの事，それ以外の職員の方達全員が積極的に関わってくださったお陰で実行できた行事であったと思う．

当日の行事を円滑に進めるために，以下のような仕事のあったことも記しておきたい．

- **仕事量の推定**　予定されている行事を行うのに，どんな作業をしなければならないか,そのためにはどの様な人を何人用意しなければならないかを決める．

- **大学院生の募集・元職員への依頼**　準備委員達だけでは手が足らないので,大学院生に手伝ってもらうこととし，必要な人数を見積もり,募集をした．募集は重川氏が主にやってくれた．

  また，参加くださる元職員にも助けてもらうこととし，その依頼をした．

- **人員配置**　どの仕事を誰が担当するのが相応しいか，を勘案しつつ配置を行った．

- **個人別時間表**　以上のような手順で行った人員配置が，無理なく役割を果たせる様になっているかを確認するために,行事進行のために働いてくれる人たち全員の，各時間の任務を一覧表に書き上げた．

  この表を用いて,計画通りに人が配置されているか,或る人に同じ時間帯に2つの仕事が割り振られてはいないか，或る人が，或る時刻を区切りに別の場所での仕事を担当することになっているとき,移動のための時間がちゃんと取れているか,をチェックした．このチェックは手数のかかる作業であった．

2.2　実行された行事

(1) **数学教室見学ツアー**　理学研究科3号館（数学教室）の玄関を含む南ウイングのタイルが貼られているた部分は，1934年（昭和9年）11月に完成した建築物であり,現在北部構内にある理学研究科の建物で,15年戦争敗戦時（1945年）の姿を留めているのはこの建物だけである．

2006年に耐震補強工事が行われた．これを機会に，北ウイングの1階と地階を図書室に作り変え，旧い部分の3階にあった図書室を移動させた．この変更以外は殆ど昔のままである．従って，設立行事に来られる卒業生全員は南ウイングの旧い部分を利用している．

したがって，卒業生の方々に1934年に建築された部分を見ていただけば，在学中のことを偲んでいただけるであろうということになった．110講演室（旧第三講義室），綺麗になった中庭，教授室だけが並びかつ西側が行き止まりになっていて，学部学生には足を踏み入れるのも怖かった2階廊下を見ていただく計画を立てた．そして耐震補強工事後北ウイングに移された図書室に入ってもらい，かつて手にした本を再び手に取ってもらえればということになった．

当日は，見学ツアーは11時からであったが，実際には準備途中の10時前から見学者が来てくださり，準備している者達は大慌となったが，また嬉しいことであった．早々と来てくれた方々の中に，家族全員で訪れてくれた方もあった．その小学生のお嬢さんは，この教室で勉強できるように頑張っていると言ってくれた．

(2) **記念講演会**　理学部6号館401号室で，野呂順一氏と森重文氏の講演が行われた．講演内容は，この冊子に収録されている．

この講演会の進行役は井川，野呂氏の講演の座長は重川一郎氏，森氏の講演の座長は向井茂氏であった．

講演会場に接してホールがあるが，このホールに数学教室が保存していた写真の内より，何枚かをプリントしてパネル展示をした．昔の北部構内の景色，大学紛争時代の様子，恩師達，卒業生などをみてもらった．

森重文氏は，講演の中で“国際数学連合の役割についてお話をしますが，そこのホールの写真を見ていると，1969年当時の写真が張ってあって，それをみていると，入学当時の話がでてきて，そちらの方を話したくなってしまいます”とこのパネル展示に触れて下さった．

パネル展示の写真をみて，学生時代を懐かしんでくださった方が沢山おられた．

(3) **設立総会**　記念講演会がもたれた会場の1階下にある301号室で設立総会が開かれた．総会出席者は161名であった．準備委員会代表であった井川が議長に指名され，議事が進められた．

議長から，ここまでの経過説明がなされ，ついで発起人会で作成された会則（案），会則の運用細則（案）が説明され，討議された．その後，京都大学理学研究科・理学部数学教室同窓会を設立し，これらの会則と運用細則に従って活動を開始することが決議された．

また，会長 渡辺信三氏をはじめ，準備会から提案された役員候補者を役員とすることが承認された．ただし，監査役員は会則には2名と定められているが，候補者は1名のみ記されていたので，議長からもう1名の指名があり，了承された．

会議の議事録はこの冊子に収録されている．

(4) 設立記念懇親会

行事としては一番大きなものであり，その準備も様々必要であった．

大学本部内にある京大同窓会の事務局とは，とくに会員の登録に関して京大アラムナイの登録制度を使うことに関連して何度か相談してきたが，懇親会の運営に関してもいろいろと助言をもらった．

準備の実務は，事務室・図書室の職員が中心となって進めてくれた．時間と手間の掛かる作業を進めてくれたことへの感謝を込めて，懇親会の準備については少し詳しく記すことにする．

(4.1) 準備

会場 2014年5月14日の最初の「呼びかけ人会」のために田中さんが作成してくれた資料の中に会場候補が挙げられていた．最初の相談で，「時計台国際交流ホール」を使うことが参加者の希望であったので，田中さんにここを確保してもらうことになった．田中さんが2015年6月6日を押さえてくれて，懇親会の開催日と場所は実質的に決まった．

料理・飲み物 飲み物と料理は，京大生協に頼むことになった．生協の担当者牛島さんと，こちら側の篠崎さんとで打ち合わせがなされた．
なにぶん，参加者数が未定の段階であるので，未知数の部分が沢山ある中での交渉であった．
料理の内容や飲み物については，折に触れて重川，田中，藤原，井川も相談に乗って生協との話し合いを詰めていった．

音楽 懇親会の中で，なにか音楽演奏があればよいな，ということが時々会議の中で語られた．
京大同窓会事務局での相談のおり，事務局から学生の音楽関係の部に頼めることを教えられた．相談の結果，邦楽にすることになり，重川，田中，井川で2015年3月17日に「叡風会」の部室に行って話を聞いてきた．結局ここに依頼することになった．

進行 会の司会・進行は藤原さんと木坂さんが担当してくれた．会の途中でのスピーチの依頼は，この両氏が候補を選び，スピーチを依頼した．

花 会場に飾る花の世話は，田中美里さんを通じて依頼した．普通の場合より遥かに安価でやってくれた．

乾杯 第2回設立準備会で，“乾杯は白鷹の樽酒でしたい”との発言を受けて，井川が辰馬伸彦氏に依頼し，辰馬氏は了承して下さった．（実質的には，樽酒一式の寄付を願った訳である）．依頼した時には，懇親会への参加者数はほぼ見通しが立った積もりで，用意していただく桝の数を伝えた．辰馬氏はその数に大幅に上乗せした数の桝を作って下さったが，最終的には少々不足したほど参加者が増えた．
実際に準備を進めるために白鷹の担当者（植村さん）と打ち合わせをするにつれて，大変なことを頼んだとの思いがしたが，この鏡開きと樽酒による乾杯，その後の酒の賞味により会がいかにも華やかになった．

写真 後にアルバムの項で記すように，図書室に残っていた写真の中から井川が中心になって選んだものを，懇親会会場でパネル展示すると共に，プロジェクターで映写した．
パネル展示の写真は藤原さんと池村さん，プロジェクターでの映写の準備と実施は田中紀子さんと佐々木洋平さんがやってくれた．

(4.2) **式次第**

同窓会会長 渡辺信三氏　挨拶
京大総長 山極壽一氏　祝辞
理学研究科長 森脇淳氏　祝辞
数学専攻長 池田保氏　数学教室の変遷
叡風会による「八千代獅子」演奏
鏡開き
乾杯　挨拶・発声 楠幸男氏

以上で歓談に入った．
その後，辰馬伸彦氏，冨永星氏，安福良直氏からスピーチをしていただいた．
再び歓談の後，井川副会長の閉会の挨拶で会を閉じた．

設立記念行事の報告を終わるにあたり，準備委員代表として懇親会参加者各位にお詫び申し上げたいことがある．

懇親会の準備に際して，或る時点で生協に用意してもらう食べ物などの量を伝えなければならなかった．十分に相談を重ねて参加者人数を推定した上で発注した．しかし参加申し込み締め切り直前に，我々の予想を超えた参加申し込みを頂いた．準備に携わった者たちにとっては，何にもまして嬉しいことであったが，他方食べ物などの注文量が，当日の実際の参加者数に比して少なくなってしまうこととなった．

参加くださった方々，特に若い方々は，食べ物などが十分でなかったとの思いをもたれたかと思う．それはここに記した事情に由来することで，ご寛恕を乞う次第である．

3　学位記授与式

これまで理学部の卒業生は，岡崎にある「みやこめっせ」で開催される京都大学全体の学位記授与式の後，三々五々北部構内に戻り，理学部事務室の窓口で各自の学位記を受け取っていた．修士修了者も，大学全体の学位記授与式が時計台ホールで行われた後は，学部学生と同様であった．

今回数学教室同窓会が発足したのを機会に，同窓会の新メンバーとなる卒業生・修了生に対し，同窓会からの祝意を伝え，また同窓会発足を知ってもらう機会を得たいと考えた．

重川さんのお骨折りで，理学部数理科学系の卒業生および理学研究科数学・数理解析専攻数学系の修了者を対象に，数学教室が学位授与式をそれぞれ開催し，同窓会から飲み物とおつまみを提供して，学位記授与の後，記念写真撮影と暫くの懇談をおこなうことが出来た．

前年度（2015年度）修士課程修了者には，2016年3月23日午後4時30分より，学部卒業生には3月24日午後1時より数学教室学位記授与式を開催した．

式次第は

専攻長（あるいは専攻主任）祝辞
学位記授与
同窓会からの祝辞
記念撮影
懇談

であった．

学位記は卒業生・修了生一人一人に，専攻長，あるいは専攻主任から直接授与された．

同窓会長の渡辺信三先生はご都合が悪かったため，井川が代理出席して祝辞を述べ，また同窓会に関心をもち，かつ積極的に活動に参加してくれるよう依頼した．

この折，卒業生・修了生に同窓会への寄付をお願いした．懇談会の場で寄付をしてくれた方も結構あったし，後日，郵便振替にて寄付を寄せてくれた方もあった．

4　丸山正樹夫人よりのご寄付

今年（2016年）6月中ごろであったが，並河良典教授を通して，日本数学会から寄付金を送りたいが何処宛に送ればよいか，との問い合わせがあった．

それは，MSJ Memoirs の Volume 33 として刊行された Masaki Maruyama with collaboration of T. Abe and M. Inaba, Moduli spaces of stable sheaves on schemes – restriction theorems, boundedness and the GIT construction – の原稿料の一部を，玲子夫人が当会にご寄付くださるとのご意向によるものである．

丸山氏がご健在であったとすれば，当然同窓会設立の中心者として活動されたことである．昨年，当会が発足することが出来たのは，2度に亘って発行された数学教室卒業者名簿（1998年，2002年）が有ったお陰であるが，この卒業者名簿作成は，丸山氏が事務職員を指揮して作成したものである．

丸山氏の業績の一つを紹介する Memoir の原稿料が寄付として当会に届いたことは，彼からの励ましと感じている．